

## 単元を貫く課題の工夫

～動物の分類を通して～

### (1) はじめに

単元を貫いた課題を設定し、生徒が知識や技能を身に付けながら、その解決に迫っていく指導計画が、近年、特に求められているように思う。単元を貫く課題は、毎時間の授業に「学ぶ必要性」を与える。さらに、1枚ポートフォリオを利用し、単元を貫く課題の解決に必要な知識や技能を授業ごとにまとめていけば、生徒は課題に対して多角的・多面的に思考しやすくなる。新たな知識を獲得し、コレクションのように増やしていくことも学びの1つの形態だが、ロールプレイングゲームのように、ボス討伐(単元を貫く課題)を掲げ、それに必要な装備(知識)を獲得し、呪文や特技(技能)を身に付け、仲間とともに課題に迫る形態の方が、よりワクワクする。

単元を貫く課題として、「私の生まれた〇年〇月〇日はどのような気象だったのだろうか」、「『今来むと言ひしばかりに長月の有明の月を待ち出でつるかな』と詠った素性法師はどんな形の月を見ていたのだろうか」など、リアリティのある課題や教科横断的な課題が生徒に好評だ。(なお、単元を貫く課題設定が難しければ、小単元を貫く課題設定でも良いと考えている。)課題が生きたものであれば、生徒は自然と相互に意見を交わしだし、探究のための行動をし始める。アクティブラーニングとは本来、このような生徒の姿を指すのであろう。

公開させていただいた授業では、2学年の動物の分類を扱った。小単元を貫く課題「動物図鑑を作れ」をミッション課題として設定した。1時間目(本時)において、現時点での知識では系統的に分類された図鑑を作ることができないということに気付かせ、動物の分類に関わる知識を授業を通じて獲得していくことの必要性をもてるようにした。また、動物模型を数多く用意し、動物たちの多様な姿に関心をもたせる工夫も取り入れた。

### (2) 準備

- ・動物模型(各班24種)※100円ショップや通信販売で購入。

### (3) 授業の実際

#### ① 動物当てゲーム

ブラックボックスに動物の模型を入れておいた。解答者以外の人はブラックボックスの中が見えている。解答者はブラックボックス内の動物がどんな特徴をもっているかを質問し、解答に必要な情報を得て、ブラックボックスの中に入っている動物が何かを当てるゲームを行った。質問は3つまでとし、より吟味された質問がなされるよう留意した。ゲームを行うことで、動物を様々な視点で捉えれば、特徴ごとに分類できるとに気づかせることができた。

#### ② 理科としての視点にしばる

クモやムカデなど、苦手な生徒も多い動物は、注意深く観察しようとしめない傾向がある。さらに、「気持ち悪い」「私は苦手」などと、理科から外れた視点で分類してしまう傾向もある。よって、動物を特徴ごとに分類する際は、理科の視点で思考が進

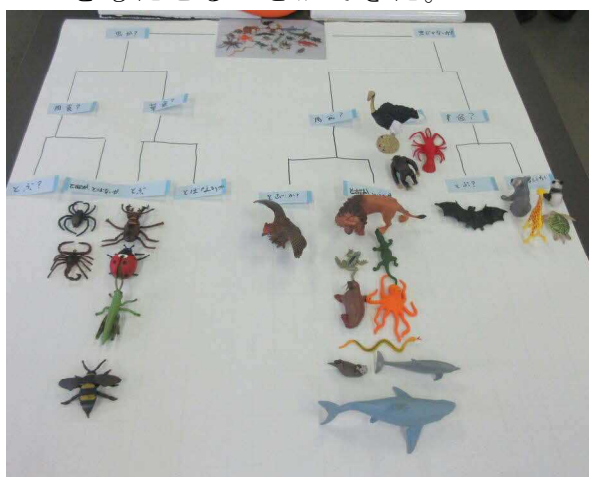
むように分類の条件を設定しておくようにした。(例：かわいい・気持ち悪いなどの感情による分類はしない。)

### ③ 質より量を大切に動物の分類

動物の分類の導入の時間であることや、様々な視点をもたせることが目的であることから、分類の種類は質よりも量に重点をおいて分類活動を行った。少しいれな分類の仕方もでてきたが、系統的に分類する際、この分類の仕方が妥当なものかどうか考えるきっかけにすることができた。

### ④ 単元を通じてどの程度の知識が身に付いたかを検証

小単元の終末の時間、もう一度同じ分類を行わせた。1時間目よりも専門的な言葉が交わされる中で分類活動が進んだ。また、1時間目と終末の時間に行った動物の分類方法を比較することで、知識の獲得により、より細かな分類ができるようになったことを確認することができた。しかし、中には中学校での知識を獲得した上でも、どちらに分類すべきか曖昧な動物も存在した。それにより、上級学校での学習のイメージをもたせることができた。



動物の分類導入の時間の分類



動物の分類終末の時間の分類

## (4) 終わりに

Society 5.0社会の到来、SDGs時代の大きなうねりという、変革の時代で生きる今の子どもたちは、私たちが子どもの頃には存在しなかった、新たな課題と遭遇していくことになる。子どもたちが課題と遭遇したとき、「それを解決するために獲得しなければならない知識や技能は何なのか」、「これまでに獲得した知識や技能で使えるものはないのだろうか」。さらに、「この考えや方法は妥当なものなのだろうか」、「この情報は本当に正しいと言えるのだろうか」等。状況に応じて瞬時に判断し、実行することが求められるようになると考えている。

令和3年度完全実施予定の新学習指導要領では、そのような新たな時代の到来に備え、子どもたちが身に付けておきたい「学びに向かう姿勢」や「資質・能力」について謳われている。知識や技能を身に付け、課題に対して粘り強く挑戦しようとする姿勢は、教科を横断して育てていく必要がある。理科においても、何を課題に設定すれば単元を貫けるかまだまだ試行錯誤の点も多いが、単元を貫く課題の工夫などを通して、それらの成長に関わっていきたいと考えている。

(所属：三島町立三島中学校 猪俣 和弘)